

## 給食施設の食形態状況調査結果の活用について

栄養・食支援の地域連携を推進するために、給食施設の食形態状況調査結果をご活用ください。

医療機関		給食施設の食形態状況調査結果(副食)										富山県高岡厚生センター
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類2013		嚥下調整食4		嚥下調整食3		嚥下調整食2-1、2-2		嚥下調整食1		嚥下調整食0t		
特別用途食品等入用難者食品許可基準		高齢者ソフト食		移行食(L4)		ペースト・ミキサー食 (2-1は均質、2-2は不均)		ゼリー・プリン状		1はゼリー状、 1はとろみ状		
嚥下ピラミッド		普通食(L5)		普通食をやわらかくしたもの		ペースト状		ゼリー・ムース		表面がつるつるのゼリー		
UDF(ユニバーサルディエタリー)区分		UD1・2		UD3		UD4						
施設名 (病院・診療所)	入所定員	形態・大きさ	一般		一口大 3cm程度	きざみ 1cm程度	きざみ 5mm程度	きざみ 2mm程度	ピューレ・ペースト状		形状で付着性・凝集性・かたさに配慮した ゼリー。断面が少なく、スライス状にす くことが可能	
A 病院	199	食種(食形態)	常食・軟食 ・7分菜	きざみ	とろみ	細かいきざみ	ミキサー食	嚥下食4・5	嚥下食2・3	嚥下食1	トロミ期は対象者によっ て個別対応。	
		備考 (形態説明等)	一口大可	トロミ可		トロミ可	ミキサー食はトロ ミ期でまとめる	ミキサー食はプル プルでまとめる		エングリッドミニ		
B 病院	58	食種(食形態)	常食・軟食 (常食・軟食)	軟食・7分 5分・3分	1~2cm程 度	5~8mm程 度	5mm以下	裏ごし (軟食)	裏ごしトロミ 付嚥下食	嚥下移行食	嚥下1 嚥下2	嚥下調整食
		備考 (形態説明等)	それぞれ一口 大きさにする。軟食程度 よりやわらかい。(7~3分 軟食程度、やわらかく煮 る。)					軟食をミキサー で裏ごししたもの、トロミ対応	市販のムース食 を使用	I:ゼリー、プ リン、納豆納豆 など、おもひぢ りー、II:におかず 菜のやわらか カップ食を追加、ミキサー粥 等	果汁ゼリーなど 一品程度	きざみ、トロミについ ては個別対応する。

### 【活用方法】

A病院の「ミキサー食」は日本摂食嚥下リハビリテーション学会「嚥下調整食分類2013(食事)」  
嚥下調整食2-1、2-2の区分に基づいた食形態であることが分かる。  
例えば、A病院では「ミキサー食」という食種を提供し、A病院からB病院に転院になった場合、  
B病院では「裏ごし」という食種を提供すればよいことが分かる。

### 日本摂食嚥下リハビリテーション学会「嚥下調整食分類2013(食事)」

嚥下訓練食品	0j	0t	嚥下調整食
	均質で付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー。離水が少なく、スライス状にすくうことが可能なもの	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したとろみ水(原則的には、中間のとろみあるいは濃いとろみ*のどちらかが適している)	1 均質で、付着性、凝集性、かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの
			2-1 ピューレ・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいもの スプーンですくって食べることが可能なもの
			2-2 ピューレ・ペースト・ミキサー食などでべたつかず、まとまりやすいもので不均質なものも含む スプーンですくって食べることが可能
			3 形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの
			4 かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの 箸やスプーンで切れるやわらかさ
			・重度の症例に対する評価・訓練用・少量をすくってそのまま丸呑み可能 ・残留した場合にも吸引が容易 ・たんばく質含有量が少ない
			・重度の症例に対する評価・訓練用・少量ずつ飲むことを想定 ・ゼリー丸呑みで誤嚥したりゼリーが口中で溶けてしまう場合 ・たんばく質含有量が少ない
			・口腔外で既に適切な食塊状(少量をすくってそのまま丸呑み可能) ・送り込む際に多少意識して口蓋に舌を押しつける必要がある。 ・0jに比し表面のざらつきあり
			口腔内の簡単な操作で食塊状となるもの(咽頭では残留、誤嚥をしにくいように配慮したもの)
			舌と口蓋間で押しつぶしが可能なもの 押しつぶしや送り込みの口腔操作を要し(あるいはそれらの機能を賦活し)、 かつ誤嚥のリスク軽減に配慮がなされているもの
			誤嚥と窒息のリスクを配慮して素材と調理方法を選んだもの 歯がなくても対応可能だが、上下の歯槽間で押しつぶすあるいはすりつぶすことが必要で舌と口蓋間で押しつぶすことは困難

### 日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類2013(とろみ)早見表

	段階1 薄いとろみ	段階2 中間のとろみ	段階3 濃いとろみ
性状の説明 (飲んだとき)	「drink」という表現が適切なとろみの程度。飲み込む際に大きな力を要しないストローで容易に吸うことができる	舌の上でまとめやすい。ストローで吸うのは抵抗がある	明らかにとろみが付いていて、まとまりがよい。送り込むのに力が必要。スプーンで「eat」という表現が適切なとろみの程度。ストローで吸うことは困難
性状の説明 (見たとき)	スプーンを傾けるとずっと流れ落ちる	スプーンを傾けるととろりと流れる	スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい
粘度(mPa・s)	50—150	150—300	300—500
LST 値(mm)	36—43	32—36	30—32